

作物名：大豆

病害虫名：べと病（病原：*Peronospora manshurica*）



発病葉（表面）



発病葉（裏面）



多発した株



菌糸に覆われた子実

## 1 被害の特徴と診断のポイント

主に7月以降の比較的温暖で雨の多いときに発生する。葉に円形または不規則な形の黄白色の病斑ができる。古くなると黄色がかかった褐色になり、病斑の周囲は濃褐色になる。病斑の葉裏側には綿毛状の灰色の菌糸が盛り上がる。菌糸の色は、乾燥してくると灰色がかかった黄色～褐色を帯びた紫色に変わる。多発すると落葉期が早まる。

種子では、種皮に灰色がかかった黄色の斑紋が現れ、その上に乳白色～黄褐色の菌糸がうすくからむ。

## 2 伝染源及び伝染方法

種子表面や被害残さの卵胞子が一次伝染源となる。翌年、分生子を形成、飛散し、気孔などから侵入し、感染する。

## 3 発病・伝染好適条件

本県では、7月中旬以降に病斑が多くみられるようになる。特に、密植、過繁茂により風通しが悪くなると多発する。

## 4 防除方法

### (1) 耕種的防除

- ・健全種子を使用する。
- ・発病の程度には品種間差があるので、発病しにくい品種を栽培する。本県主要品種では、「ミヤギシロメ」、「タンレイ」の順でべと病粒(被害粒)の発生が多く、「タチナガハ」及び「あやこがね」では発生がほぼ認められない。
- ・過繁茂とならないよう肥培管理に留意する。
- ・被害茎葉は、ほ場に残さないよう適切に処理する。
- ・連作を避ける。

### (2) 化学的防除

- ・多発ほ場では、病勢が激しくなる前に予防防除を行う。

## 5 出典

- (1) 参考文献：みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針（宮城県）  
農業総覧 病害虫防除・資材編1（農文協）  
植物防疫 第73巻第3号:44-48（日本植物防疫協会）  
日植病報61:166-168

- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

（2021年3月作成）